

全国財務局

管内経済情勢報告概要

令和5年4月25日

財 務 省

目 次

I 地域経済の概況

地域経済の概況	2
全財務局管内経済情勢報告	3
（参考）財務局及び財務事務所において判断した各地域の経済情勢.....	4

II 各財務局からの報告

北 海 道 財 務 局	7
東 北 財 務 局	11
関 東 財 務 局	15
北 陸 財 務 局	19
東 海 財 務 局	23
近 畿 財 務 局	27
中 国 財 務 局	31
四 国 財 務 局	35
九 州 財 務 局	39
福 岡 財 務 支 局	43
沖 縄 総 合 事 務 局	47

I 地域経済の概況

地域経済の概況

○令和5年1月判断と比べた5年4月判断の地域経済の動向

「総括判断」は、1地域で「上方修正」、10地域で「据え置き」。

○令和5年4月判断の全局総括判断

「物価上昇や海外経済の減速等の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

【財務局等の管轄区域】

財務局等	指標中略称	管轄都道府県	本局所在地
北海道財務局	北海道	北海道	札幌市
東北財務局	東北	宮城県、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県	仙台市
関東財務局	関東	埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県	さいたま市
北陸財務局	北陸	石川県、富山県、福井県	金沢市
東海財務局	東海	愛知県、岐阜県、静岡県、三重県	名古屋市
近畿財務局	近畿	大阪府、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県	大阪市
中国財務局	中国	広島県、鳥取県、島根県、岡山県、山口県	広島市
四国財務局	四国	香川県、徳島県、愛媛県、高知県	高松市
九州財務局	九州	熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県	熊本市
福岡財務支局	福岡	福岡県、佐賀県、長崎県	福岡市
沖縄総合事務局財務部	沖縄	沖縄県	那覇市

全財務局 管内経済情勢報告

	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回との基調比較	全局総括判断の要点
全局総括	物価上昇や供給面での制約等の影響がみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	物価上昇や海外経済の減速等の影響がみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、持ち直している。生産活動は、物価上昇や海外経済の減速等の影響がみられるなか、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
財務局名	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回との基調比較	各財務局の総括判断の要点
北海道	<u>緩やかに持ち直しつつある</u>	<u>持ち直しつつある</u>	↶	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しつつある。観光は、持ち直しつつある。
東北	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスがスマートフォン向けなどで弱含んでいるほか、生産用機械が海外の設備投資需要の落ち着きから弱含んでいるなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
関東	物価上昇や供給面での制約等の影響がみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	物価上昇や供給面での制約等の影響がみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、百貨店販売額、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直しており、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるなか、輸送機械、生産用機械、汎用機械などが減少しており、弱含んでいる。雇用情勢は、改善しつつある。
北陸	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が緩やかに持ち直していることなどから、全体では緩やかに持ち直している。生産活動は、生産用機械が拡大しているものの、電子部品・デバイスが弱まっていることなどから、全体では足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
東海	<u>緩やかに回復している</u>	<u>緩やかに回復している</u>	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
近畿	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	→	個人消費は、人流の回復やインバウンドの増加により、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
中国	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	→	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、外出機運の高まりやインバウンドの回復により持ち直している。生産活動は、半導体需要の鈍化や、自動車向けの需要回復の遅れなどから足踏みの状況にある。雇用情勢は、新規求人数が増加しているなど持ち直している。
四国	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	→	個人消費は、スーパーが底堅い状況のなか、百貨店が緩やかに持ち直しつつあるほか、観光も緩やかに回復しつつあることなどから、全体としては緩やかに持ち直している。生産活動は、化学が足踏みの状況にあるほか、電気機械、パルプ・紙が弱含んでいることなどから、全体としては弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
九州	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	→	個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、宿泊などサービス消費を中心に持ち直している。生産活動は、半導体関連の需要に落ち着きが見られるなど、回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。
福岡	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	→	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
沖縄	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	→	個人消費は、持ち直している。観光は、旅行需要喚起策の効果などから、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。

(注) ※ 5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断。
 ※ 下線部が基調判断。

(参考) 財務局及び財務事務所において判断した各地域の経済情勢

	総括判断(5年4月判断)	前回の比較	総括判断の要点
北海道財務局	持ち直しつつある		個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しつつある。観光は、持ち直しつつある。
東北財務局	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスがスマートフォン向けなどで弱含んでいるほか、生産用機械が海外の設備投資需要の落ち着きから弱含んでいるなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
> 宮城	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
> 青森	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は弱含んでいる。雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
> 岩手	持ち直しつつある		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は持ち直しつつある。
> 秋田	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている		個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。
> 山形	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は持ち直している。
> 福島	持ち直しつつある		個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
関東財務局	物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している		個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、百貨店販売額、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直しており、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるなか、輸送機械、生産用機械、汎用機械などが減少しており、弱含んでいる。雇用情勢は、改善しつつある。
> 埼玉	物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している		個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱い動きとなっている。雇用情勢は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。
> 茨城	緩やかに持ち直している		生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっているが、個人消費、雇用情勢は緩やかに持ち直している。
> 栃木	供給面での制約の影響が残るものの、持ち直しつつある		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響が残る中、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
> 群馬	供給面での制約の影響がみられ、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている		個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられ、弱含んでいる。雇用情勢は、足踏みの状況にある。
> 千葉	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直している。
> 東京	緩やかに持ち直している		個人消費及び産業活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに改善している。
> 神奈川	一部に弱さがみられるものの、持ち直している		個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられる中、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
> 新潟	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、改善しつつある。
> 山梨	一部に弱さがみられるものの、持ち直している		個人消費は、持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直している。
> 長野	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しの動きに一服感がみられる。雇用情勢は、改善しつつある。
北陸財務局	緩やかに持ち直している		個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が緩やかに持ち直していることなどから、全体では緩やかに持ち直している。生産活動は、生産用機械が拡大しているものの、電子部品・デバイスが弱まっていることなどから、全体では足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
> 石川	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は足踏みの状況にある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
> 富山	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は足踏みの状況にある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
> 福井	持ち直しの動きに一服感がみられる		個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は弱含んでいる。また、雇用情勢は、持ち直している。
東海財務局	緩やかに回復している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
> 愛知	緩やかに回復している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
> 岐阜	持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
> 静岡	緩やかに回復しつつある		個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
> 三重	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部で調整する動きが続いているものの、全体ではおおむね横ばいとなっている。雇用情勢は、改善に向けた動きが続いている。

(注) 5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断。

	総括判断（5年4月判断）	前回の比較	総括判断の要点
近畿財務局	持ち直している	➡	個人消費は、人流の回復やインバウンドの増加により、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。
➢ 大阪	持ち直している	➡	個人消費は持ち直している。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は持ち直しつつある。
➢ 滋賀	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
➢ 京都	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
➢ 兵庫	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢はテンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。
➢ 奈良	持ち直している	➡	個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
➢ 和歌山	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。

中国財務局	持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、外出機運の高まりやインバウンドの回復により持ち直している。生産活動は、半導体需要の鈍化や、自動車向けの需要回復の遅れなどから足踏みの状況にある。雇用情勢は、新規求人数が増加しているなど持ち直している。
➢ 広島	持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、外出機運の高まりやインバウンドの回復により持ち直している。生産活動は、半導体需要の鈍化や、自動車向けの需要回復の遅れなどから足踏みの状況にある。雇用情勢は、新規求人数が増加しているなど持ち直している。
➢ 鳥取	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	➡	生産活動は足踏みの状況にあるものの、個人消費は持ち直しつつあり、雇用情勢は持ち直している。
➢ 島根	持ち直しのテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は弱含んでいる。雇用情勢は持ち直している。
➢ 岡山	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➢ 山口	持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響はみられるものの、持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。

四国財務局	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、スーパーが底堅い状況のなか、百貨店が緩やかに持ち直しつつあるほか、観光も緩やかに回復しつつあることなどから、全体としては緩やかに持ち直している。生産活動は、化学が足踏みの状況にあるほか、電気機械、パルプ・紙が弱含んでいることなどから、全体としては弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➢ 香川	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➢ 徳島	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➢ 愛媛	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➢ 高知	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

九州財務局	持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、宿泊などサービス消費を中心に持ち直している。生産活動は、半導体関連の需要に落ち着きが見られるなど、回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。
➢ 熊本	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、宿泊などサービス消費を中心に持ち直している。生産活動は、半導体関連の需要に落ち着きが見られるなど、拡大の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。
➢ 大分	持ち直している	➡	個人消費は、物価高の影響もみられるなか、百貨店・スーパーや宿泊・観光関連などで客数が増加していることから、持ち直している。生産活動は、非鉄金属・金属製品において海外向けの需要により堅調となっているなど、持ち直している。雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業などにおいて新規求人数の増加が続くなど、持ち直している。
➢ 宮崎	持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、百貨店・スーパーやレジャー・観光施設などで客足に戻りが見られることから持ち直している。生産活動は、供給面での制約などの影響がみられるなか、食料品工業などに弱さがみられ、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業などを中心に緩やかに持ち直している。
➢ 鹿児島	持ち直している	➡	個人消費は、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光施設などで客数の増加傾向が続いていることから、持ち直している。生産活動は、在庫調整の動きが拡大するなど、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直している。

福岡財務支局	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➢ 福岡	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
➢ 佐賀	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、物価上昇等の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
➢ 長崎	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

沖縄総合事務局	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。観光は、旅行需要喚起策の効果などから、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。
---------	---------	---	---


(注)5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断。

Ⅱ 各財務局からの報告

北海道財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直しつつある」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直しつつある	持ち直しつつある	




（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。







（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直しつつある。観光は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある	
生産活動	弱含んでいる	弱含んでいる	
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
観光	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている	
住宅建設	弱含んでいる	弱い動きとなっている	
公共事業	前年を下回る	前年を下回る	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある」

スーパー販売は、家計の節約志向の高まりがみられるものの、商品単価の上昇などから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、イベント開催に伴う人流の回復などから販売が増加し、持ち直している。乗用車販売は、需要が引き続き堅調であることから、緩やかに持ち直しつつある。ドラッグストア販売は、医薬品販売が好調なことなどから、前年を上回っている。百貨店販売は、フォーマル需要や春物に動きがみられるなど、緩やかに持ち直している。家電販売は、高性能・高単価な白物家電の需要の高まりがみられ、緩やかに持ち直しつつある。ホームセンター販売は、家計に節約志向がみられ、来店客が減少しているなど、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

このように、個人消費は全体として、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 値上げの影響により、買上点数の減少など生活防衛意識の高まりは感じられる。また、来店客数が前年を上回っているが、複数店舗の買い回り傾向が強まっている可能性もある。(スーパー)
- 人流の回復、観光客の増加に伴う来店客数の増加がみられ、弁当やおにぎり、飲料水といった商品が好調となっている。(コンビニエンスストア)
- 様々な物の値段が上昇している状況にあるが、乗用車は生活必需品という側面もあるため、買い控えのような購買意欲の減退は感じられず、受注は順調である。(乗用車販売店)
- 商品値上げから売上は前年を上回るが、家計の節約志向を背景として、セールを行うなど競合が増している。化粧品は、値上げなどにより屋内マスクの規制緩和後も動きが鈍い。(ドラッグストア)
- 中間層が購入する福袋や新春のセール品は、販売価格上昇から値ごろ感が薄れ、販売が伸び切らなかった。一方、外出機会の増加から、春コート、バッグが前年から大幅増となった。(百貨店)
- 電気料金の値上げを受けて、高価であっても、より優れた省エネ性能を備えた冷蔵庫や洗濯機が売れている。(家電量販店)
- 催事とシネマを目的とした来場者の増加から、飲食店売上は前年を上回って推移している。(不動産業)

■ 生産活動 「弱含んでいる」

生産活動は、弱含んでいる。

- 部品の供給制約により、納期が翌年にずれこむ案件が多いほか、納期を示せず契約が難航するケースがある。また、見積りから発注までに時間を要すると、当初見積りから部品価格が大きく上昇し、再見積りの価格も引き上げざるを得ない結果、投資を見送る企業もみられる。(生産用機械)
- 需要については前期から大きな変化はなく、自動車向けが、減産による影響により前年を下回る状況が継続している。(鉄鋼)
- コンビニ・飲食店向け出荷は、コロナ前には及ばないが回復しつつあり、生産量が増加している。(食料品)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は横ばいとなっており、完全失業率は前年を下回るなど、雇用情勢は、持ち直しつつある。

- 新規求人数は、引き続き増加傾向にある。宿泊業で、全国旅行支援や水際対策の緩和に伴い、旅行需要が旺盛であることや、サービス業で、人流の増加により清掃や警備の需要が増加したことから、求人が増加した。(公的機関)
- 新規求職者数は、感染者数の落ち着きによる就職活動の再開により増加に転じたものと考えている。特に高齢者は、感染者数の多かった10月～12月は就職活動を控え、感染者数の落ち着いた1月以降に再開する動きがみられた。(公的機関)
- 清掃、フロントなどの部門も足りていないが、特に免許が必要とされる調理師が不足していることから、旺盛な宴会需要に対応しきれていない。(宿泊業)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、「食料品」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「娯楽業」などが増加していることから、全体では増加見込みとなっている。

- 4年度は例年並みの維持更新に加え、前年度からのずれ込み分が発生していた。5年度は既存製品増産のため、老朽化した工場の大規模更新を計画している。(食料品)
- 4年度に新規施設の完成に向けて多額の投資を行った。5年度の設備投資額はその反動により、大幅に減少する見込み。(娯楽業)

■ **観光** 「持ち直しつつある」

- 観光は、来道客数、外国人入国者数がともに前年を上回っており、持ち直しつつある。

- 今期はさっぽろ雪まつりやオホーツク流水観光等による北海道の観光需要が高まり、コロナ禍前と比較しても、販売額が9割近くまで戻った。(旅行業)
- 昨年12月以降、インバウンドの回復が著しく、雪まつり期間は特に好調で、早々に予約で満室になり、新規受付が出来ない日もあった。(宿泊業)
- インバウンドの団体客はコロナ禍前と比較すると半分ほどであり、直行便が再開されない限りは回復は望めない。その一方で、国内の旅行需要は、3月以降、全国旅行支援のほか、マスク着用が緩和されたことや春休みシーズンという要素も加わり、完全に回復したと考えている。(宿泊業)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、「食料品」などが減益となっていることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、「運輸業、郵便業」が赤字拡大となっていることなどから、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「「下降」超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 企業の景況感を当局の法人企業景気予測調査(5年1-3月期)で見ると、企業の景況判断BSIは、全産業では「下降」超となっている。

なお、先行きは、5年4-6月期に「上昇」超へ転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱い動きとなっている」

- 住宅建設は、貸家は前年を上回っているものの、持家、分譲住宅は前年を下回っており、弱い動きとなっている。

■ **公共事業** 「前年を下回る」

- 公共事業を前払金保証請負金額で見ると、第4四半期は、国、独立行政法人等、北海道、市町村いずれも前年を下回っており、全体でも前年を下回っている。

■ **金融** 「貸出金残高は前年を上回る」

■ **企業倒産** 「件数は前年を上回る」

■ **消費者物価** 「前年を上回る」

東北財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスがスマートフォン向けなどで弱含んでいるほか、生産用機械が海外の設備投資需要の落ち着きから弱含んでいるなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	持ち直しのテンポが緩やかになっている	一進一退の状況にある	↔
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

設備投資	4年度は増加見込み	4年度は減少見込み	↔
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は増益見込み	→
企業の景況感	「下降」超幅が縮小	「下降」超幅が拡大	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	→
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、海外経済の動向、物価上昇、供給面での制約等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパー販売は飲食料品が堅調となっており、前年を上回っている。百貨店販売は身の回り品等が好調となっており、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売はカウンター商品が好調となっており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は新規出店効果のほか、医薬品や飲食料品が好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売は園芸用品等に動きがみられるものの、日用品等が低調となっていることから、前年並みとなっている。家電大型専門店販売は冷蔵庫やエアコンなどが好調となっていることから、前年を上回っている。乗用車販売は半導体不足等の影響による納車の遅れが続いているものの、前年を上回っている。旅行は国内旅行が持ち直している。このように、個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 総菜は、ついで買いしやすい低価格の小分けパックの陳列を強化しており、購買点数も伸びている。(スーパー、中堅企業)
- 卒業式や入学式などオケージョン需要の高まりからフォーマルウェアやバッグなどが好調だった。(百貨店)
- カウンター商品は、値上げはしているものの外出機会の増加により引き続き好調となっている。(コンビニエンスストア、大企業)
- 飲料は安く取り揃えていることから、まとめ買いの動きもみられている。また、花粉の飛散量が多いことにより花粉症対策の薬が好調。(ドラッグストア、中堅企業)
- 県による省エネ家電購入への支援事業が開始したことで、性能の高い冷蔵庫やエアコンなどで動きがみられた。(家電量販店、大企業)
- 納車状況は改善しているものの、依然として半導体・自動車部品の調達難により納車遅れ、在庫不足が続いている。(自動車販売、中小企業)
- 感染症に落ち着きがみられ旅行マインドも上昇傾向にある。これまで動きのなかった社員旅行や海外旅行にも春先以降予約がみられるようになってきた。(旅行代理店、中堅企業)
- 全国旅行支援や行動規制緩和による人流回復で客数、売上げは増加した。韓国からのチャーター便による団体客の受入れもあった。(宿泊、中堅企業)
- 人流の増加に伴って各店舗へのファミリー層の来店が増えてきており、売上げは回復傾向にある。今後も新型コロナウイルス感染症の5類移行も予定されており、大いに回復していくものと見込んでいる。(飲食、中小企業)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

電子部品・デバイスは自動車向けが堅調となっているものの、スマートフォンやパソコン向けで海外経済の減速等を背景に弱含んでいる。輸送機械は供給制約に緩和の動きがみられ、持ち直しつつある。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける設備投資需要の落ち着きから、弱含んでいる。このように、生産活動は、一進一退の状況にある。

- 自動車向けなどのパワー半導体の需要は堅調に推移しており増産している。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- スマートフォンやパソコン向けについては、世界的な景気減速に伴う需要減少により取引先が在庫調整を行っているため減産しているほか、納期の後ろ倒しの依頼も増えてきている。(電子部品・デバイス、大企業)
- 半導体不足に一服感があり、1～3月は過去の稼働停止分の挽回を図るため休日操業を行うなど、増産となった。(輸送機械、大企業)
- 半導体メーカーにおいて、製造装置への設備投資を後ろ倒しにする動きがみられるなど、需要が落ち着いてきていることから生産調整を行っている。(生産用機械、大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は低下しているものの、新規求人数は医療・福祉等において増加している。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 慢性的な人手不足となっている介護施設からの求人のほか、地方公共団体の会計年度任用職員の求人が増加している。(公的機関)
- 物価高を背景に、より賃金が高い企業へ転職する動きが活発化している。(公的機関)

- **設備投資** 「4年度は減少見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
 - 製造業では、金属等で減少見込みとなっているものの、生産用機械、情報通信機械等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
 - 非製造業では、宿泊・飲食等で増加見込みとなっているものの、電気・ガス・水道、情報通信等で減少見込みとなっていることから、全体では減少見込みとなっている。
- 倉庫建設や維持更新投資などにより増加する見込みとなっている。(生産用機械、大企業)
 - 前年度までの大型投資の反動により減少する見込みとなっている。(電気・ガス・水道、大企業)
- **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
 - 製造業では、食料品等で減益見込みとなっているものの、生産用機械、木材・木製品等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
 - 非製造業では、小売等で減益見込みとなっているものの、宿泊・飲食で黒字転化見込み、運輸・郵便で赤字幅縮小見込みとなっていることなどから、全体では増益見込みとなっている。
 - **企業の景況感** 「『下降』超幅が拡大」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
 - 現状(5年1-3月期)は「下降」超幅が拡大している。先行きは5年4-6月期に「下降」超幅が縮小し、5年7-9月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。
 - **住宅建設** 「前年を下回っている」
 - 新設住宅着工戸数をみると、貸家が前年を上回っているものの、持家、分譲が前年を下回っていることから、前年を下回っている。
 - **公共事業** 「前年度を下回っている」
 - 前払金保証請負金額は、県、その他で前年度を下回っており、全体では前年度を下回っている。
 - **消費者物価** 「前年を上回っている」
 - **金融** 「貸出金残高は、前年を上回っている」
 - **企業倒産** 「件数は前年を下回っており、負債総額は前年を上回っている」


3. 各県の総括判断

	前回(5年1月判断)	今回(5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は弱含んでいる。雇用情勢は感染症の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。
岩手県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田県	持ち直しつつある	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。
山形県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は持ち直している。
福島県	持ち直しつつある	持ち直しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しつつあり、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は緩やかに持ち直している。

関東財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	




（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。







（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、百貨店販売額、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額などが前年を上回っているほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直しており、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられるなか、輸送機械、生産用機械、汎用機械などが減少しており、弱含んでいる。雇用情勢は、改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	
生産活動	持ち直しの動きに一服感がみられる	弱含んでいる	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	改善しつつある	

設備投資	4年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	4年度は増加見込みとなっている（全規模・全産業ベース）	
企業収益	4年度は増益見込みとなっている（全規模ベース）	4年度は増益見込みとなっている（全規模ベース）	
企業の景況感	「上昇」超となっている（全規模・全産業ベース）	「下降」超となっている（全規模・全産業ベース）	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年を下回っている	前年を上回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

百貨店販売額、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額、ホームセンター販売額は前年を上回っている。家電販売額は前年を下回っている。乗用車の新車登録届出数は、小型車が前年を下回っているものの、普通車、軽乗用車は前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

宿泊や飲食サービスなどは、持ち直している。

このように個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加に伴い土産の菓子・名産品が好調であるほか、卒業式・入学式向けの婦人フォーマルが好調となっている。物価上昇に伴う節約志向が強まっているものの、富裕層の購買意欲は変わらず、時計・宝飾品は引き続き好調。(百貨店、中堅企業)
- 内食需要の減少や、値上げラッシュに伴う買い上げ点数の減少・消費者の購買意欲の低下がみられるものの、客単価の上昇により売上高は増加している。(スーパー、大企業)
- 行動制限の緩和に伴う人流回復により客数は増加傾向であり、飲料水、菓子、パンなどの販売が伸びており、売上は増加している。(コンビニエンスストア、中小企業)
- 物価上昇により消費マインドは低下気味であるものの、風邪薬のほか、花粉飛散により関連医薬品の販売が好調であったことから、売上は増加している。(ドラッグストア、中堅企業)
- メーカーからの車両供給台数が持ち直していることから、新車登録台数が足下で回復し、売上も前年比で増加しているが、当面は車両供給が不安定な状態が続くと見込んでいる。(自動車販売、中小企業)
- 国内旅行は全国旅行支援の効果から、旅行取扱高はコロナ禍前の水準を上回っている。(旅行、中堅企業)
- 年末以降、東南アジアの富裕層のインバウンド客が増加したほか、オーストラリアからのスキー客の長期宿泊も戻ってきており、客数・売上高ともに前年を上回っている。(宿泊、中小企業)
- コロナからの回復やインバウンド需要により客数が増加していることに加え、3月は卒業式や歓送迎会等の行事もあって売上は増加している。(飲食サービス、中小企業)

■ 生産活動 「弱含んでいる」

生産を業種別にみると、一部に供給面での制約の影響がみられるなか、輸送機械、生産用機械、汎用機械などが減少しており、全体としては、弱含んでいる。

- 車載半導体不足は一時期緩和したものの、年明け以降、再び不足するなど不安定な状況が続いており、これに伴って自動車の生産量が減少している。(輸送機械、大企業)
- 自動旋盤は、完成車メーカーの減産の影響により自動車向けの受注が低調であるほか、パソコンやスマホが在庫調整局面に入ったことによりIT・電子部品向けも低調であり、生産量は減少している。(生産用機械、大企業)
- 自動車用エンジン部品は、国内完成車メーカー向けが回復しているものの、中国向けは年末から1月にかけて低迷し、2月以降の生産量も元の水準まで戻っていない。(汎用機械、大企業)

なお、非製造業では、リース業の取扱高及び情報サービス業の売上高は前年を上回り、広告業の売上高は前年を下回っている。

■ 雇用情勢 「改善しつつある」

有効求人倍率は上昇し、新規求人数は増加しているほか、完全失業率は改善している。このように雇用情勢は、改善しつつある。

- 常に人手が不足していることから、募集にあたっては、年間の休暇日数を増やすなど待遇改善を行っているほか、非正規社員を積極的に正社員へ登用するなど人材確保に努めている。(製造業、中小企業)
- コロナ禍において従業員が大幅に減少しており、賃金面の改善でつなぎ止めを図りたいところだが、足下の経営状況を踏まえると大幅な賃上げは難しい。(宿泊、中小企業)

■ 設備投資 「4年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、石油・石炭などで減少見込みとなっているものの、化学、情報通信機械などで増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信業などで減少見込みとなっているものの、金融業、保険業、不動産業などで増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 次世代に向けた新規製品の開発を進めるため、積極的な投資を行っていることから増加見込み。(化学、大企業)
- 収益基盤を強化するため新規ビルの開発を進めており、前年度よりも案件数が増加するとともに物件の規模も大きくなっていることから増加見込み。(不動産、大企業)

■ 企業収益 「4年度は増益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、化学などで減益見込みとなっているものの、食料品製造業などで増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売業などで減益見込みとなっているものの、運輸業、郵便業などで増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

- **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期
 - 大企業、中堅企業は「下降」超に転じ、中小企業は「下降」超幅が拡大している。
先行きについては、全規模・全産業ベースで5年4～6月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。
 - **住宅建設** 「前年を下回っている」
 - 新設住宅着工戸数をみると、分譲住宅は前年を上回っているものの、持家、貸家は前年を下回っており、全体として前年を下回っている。
- 注文住宅は、建築資材の高騰を受け、住宅の販売価格を上げたところ、昨年秋以降受注が落ち込んでおり、足下も低調な受注状況が続いている。(不動産、中小企業)
 - 分譲マンションは、鉄鋼などの資材価格の高騰に伴って販売価格に転嫁しているものの、都心やその近郊のマンション需要は衰えておらず、販売は堅調に推移している。(不動産、大企業)
- **公共事業** 「前年を上回っている」
 - 前払金保証請負金額をみると、独立行政法人等は前年を下回っているものの、国、都県、市区町村が前年を上回っており、全体として前年を上回っている。
 - **輸出** 「前年を上回っている」
 - 通関実績(円ベース、東京税関と横浜税関の合計額)でみると、輸出は前年を上回っている。
なお、輸入も前年を上回っている。
 - **倒産** 「件数、負債総額ともに前年を上回っている」

3. 各都県の総括判断

	前回 (5年1月判断)	今回 (5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
埼玉県	物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	物価上昇や供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱い動きとなっている。雇用情勢は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。
千葉県	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直している。
東京都	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費及び産業活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに改善している。
神奈川県	持ち直している	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響がみられる中、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
茨城県	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっているが、個人消費、雇用情勢は緩やかに持ち直している。
栃木県	供給面での制約の影響が残るものの、持ち直しつつある	供給面での制約の影響が残るものの、持ち直しつつある	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部に供給面での制約の影響が残る中、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
群馬県	供給面での制約の影響がみられるものの、持ち直しつつある	供給面での制約の影響がみられ、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられ、弱含んでいる。雇用情勢は、足踏みの状況にある。
新潟県	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、改善しつつある。
山梨県	持ち直している	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直している。
長野県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しの動きに一服感がみられる。雇用情勢は、改善しつつある。

北陸財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が緩やかに持ち直していることなどから、全体では緩やかに持ち直している。生産活動は、生産用機械が拡大しているものの、電子部品・デバイスが弱まっていることなどから、全体では足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	回復に向けた動きに一服感がみられる	足踏みの状況にある	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	4年度は増加見込みとなっている	4年度は増加見込みとなっている	→
企業収益	4年度は増益見込みとなっている	4年度は減益見込みとなっている	↘
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、スーパーでは飲食料品の動きがやや落ち着いていることから、前年を下回っているものの、百貨店では衣料品や高額品に動きがみられることから、前年を上回っており、全体では緩やかに持ち直している。コンビニエンスストア販売は、米飯類等に動きがみられることから、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられることに加え、新規出店効果がみられることから、順調となっている。ホームセンター販売は、日用品等の動きが鈍いことから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、パソコンに動きがみられるものの、テレビの動きが鈍いことから、横ばいの状況にある。新車販売台数は、小型乗用車は前年を下回っているものの、普通乗用車、軽乗用車は前年を上回っており、持ち直しつつある。主要観光地の入込客数及び主要温泉地の宿泊客数は前年を上回っている。旅行取扱実績は、海外旅行は厳しい状況にあるものの、国内旅行は全国旅行支援の効果により動きがみられる。以上のことから、個人消費については、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 外出意欲の高まりもあり、衣料品の売れ行きが良かったほか、高額品は依然としてコロナ前を上回る売上となっている。また、マスクの着用は個人の判断が基本となり、化粧品に動きがみられ始めている。(百貨店)
- 節分やひなまつり等のイベントでは惜しみなくお金を使う動きがみられる。一方、物価高やエネルギー価格の上昇を背景とした節約意識により、以前よりも特売日に売上が集中しており、それ以外の日は客数がやや鈍い。(スーパー、中小企業)
- 観光地周辺の店舗を中心に客数が増加しており、おにぎりなど米飯類の売れ行きが良い。(コンビニエンスストア、大企業)
- 飲食料品の売れ行きが良いほか、例年より花粉症関連商品に動きがみられる。(ドラッグストア、中堅企業)
- 物価高による節約意識の影響から他業態との競争が増しており、日用品の買上点数が減少している。(ホームセンター、大企業)
- OSのサポート終了に伴い、パソコンの買い替え需要がみられたものの、テレビの動きが鈍い。(家電大型専門店、中堅企業)
- 引き続き納車までの期間は長いものの、改善がみられている。また、受注は順調に推移している。(自動車販売店、中小企業)
- 1月以降は全国旅行支援の効果が薄れてきていると感じるものの、引き続き宿泊客数は回復傾向にある。(温泉地)
- 引き続き、外出意欲が高まっており、駅周辺を中心に人流が回復してきている。(商業施設、中小企業)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

電子部品・デバイスは、スマートフォン向けが減少しているほか、自動車向けが弱含んでいることなどから、全体では弱まっている。化学は、大宗を占める医薬品で、持ち直している。生産用機械は、半導体製造装置が拡大の動きに一服感がみられるものの、繊維機械が拡大しているほか、金属加工機械が増加していることなどから、全体では拡大している。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、ビル用が持ち直しつつあるものの、住宅用が足踏みの状況にあることから、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。繊維は、衣料向け、非衣料向けともに緩やかに持ち直しつつある。以上のことから、生産活動については、足踏みの状況にある。

- スマートフォン向けについて、中国メーカー向けは、中国の消費の冷え込みの影響から減少しているほか、北米メーカー向けも含め、世界的なスマートフォンの買い替えサイクルの長期化などから受注が落ち込んでおり、在庫も積みあがっている。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 後発医薬品の需要が引き続き増加しているため、製剤工場及び原薬工場ともに、今いる人員をフル動員して生産ラインの稼働に対応している。(化学、大企業)
- インド向けが好調な内需を背景に増加しているほか、中国向けも堅調で、工場は高操業を続けている。(生産用機械、大企業)
- ビル用建材については動きがみられるものの、持家の着工戸数が減少傾向にあることから、住宅用建材やエクステリアの動きが鈍くなっている。(金属製品、大企業)
- 主力の車両資材については、半導体不足による自動車減産の状況が解消に向かっており、前年同期比では売上・利益ともにプラスとなっている。(繊維、大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は緩やかに低下しているものの、求人は底堅く推移している。新規求人数、新規求職者数ともに前年を上回っている。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。以上のことから、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 足下は外需を中心に繁忙となっており、派遣職員を増員して対応している。(生産用機械、大企業)
- 生産水準を落としていることから人員が過剰気味であり、現場作業員の中途採用を止めているほか、退職などに伴う補充も行っていない。(電子部品・デバイス、中堅企業)

- 製造ライン、総務系統、技術者とすべてにおいて深刻な人手不足に陥っていることから、生産ラインをフル稼働できない状況となっている。(繊維、中小企業)
- 特に食品売場で人員が足りない。依然として食品スーパーやドラッグストアの新規出店もあり、人員の取り合いになっている。(小売、中堅企業)
- 温泉旅館では、繁閑の差が大きいことや、地域に若者が少ないことから人手不足が継続しており、休日など予約が集中する日は一部断ることもある。一部では技能実習生を受け入れることなどにより対策している。(観光協会)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、情報通信機械器具などが増加となるものの、金属製品、生産用機械器具などが減少となることから、全体では減少見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信などが減少となるものの、小売、運輸・郵便などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。

- 生産設備の拡充などにより、増加見込み。(情報通信機械器具、大企業)
- 新規出店や物流倉庫の整備などにより、増加見込み。(小売、中堅企業)
- 前年度に実施した大型投資の反動などにより、減少見込み。(金属製品、大企業)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、繊維工業などが増益となるものの、情報通信機械器具、自動車・同附属品などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信などが減益となるものの、学術研究・専門・技術サービス、運輸・郵便などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 企業の景況判断BSIは、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。なお、先行きは、全産業では5年4-6月期、5年7-9月期ともに「上昇」超となる見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱含んでいる」

- 新設住宅着工戸数で見ると、弱含んでいる。

■ **公共事業** 「前年を下回っている」

- 前払金保証請負金額で見ると、前年を下回っている。

■ **金融機関の貸出金** 「前年を上回っている」

- 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。




■ **企業倒産** 「前年並みとなっている」

- 負債総額は前年を下回っているものの、件数は前年並みとなっている。

■ **消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合)** 「前年を上回っている」

- 消費者物価指数で見ると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(5年1月判断)	今回(5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は足踏みの状況にある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は足踏みの状況にある。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
福井県	持ち直しの動きに一服感がみられる	持ち直しの動きに一服感がみられる		個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は弱含んでいる。また、雇用情勢は、持ち直している。

東海財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、足踏みの状況が続いている	緩やかに回復しつつある	↗
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	→
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
住宅建設	弱含んでいる	弱い動きとなっている	↘
公共事業	前年並みとなっている	前年を下回っている	↘
輸出	緩やかに増加している	緩やかに増加している	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が緩やかに回復していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパー販売は、横ばいとなっている。コンビニエンスストア販売は、緩やかに持ち直している。ドラッグストア販売は、増加している。百貨店販売は、緩やかに回復している。家電大型専門店販売は、横ばいとなっている。ホームセンター販売は、弱い動きとなっている。乗用車販売は、供給面の影響が残るものの、緩やかに持ち直しつつある。旅行取扱高は、国内向けを中心に、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 物価上昇の影響もあり、一人当たり買上点数は減少している。生活防衛意識の高まりが見られ、特売日における購入が集中する傾向がある。(スーパー、大企業)
- 外出増加等により化粧品や飲食品、花粉症の治療薬の売行きが好調。調剤も引き続き伸びている。加えて卵や牛乳、パンなどの日配品の売行きが好調。(ドラッグストア、大企業)
- 総じて売上は好調。コロナで売上が落ち込んでいたビジネス関連商品や、セレモニー用のフォーマル服、口紅等の化粧品の需要が復活してきている。(百貨店、大企業)
- 半導体不足等による供給制約が解消しつつあり、メーカーからの供給が回復し、販売増加につながっている。受注残の増加に歯止めがかかってきており、今の供給状況が続けば、今後は減少に転じることが見込まれる。(乗用車、中小企業)
- 国内については、旅行に加えイベントや対面会議の開催需要が高まり、取扱いが増加している。海外については、個人や出張等の取扱いについては確実に増えているものの、円安や物価高の影響により戻りが弱い。(旅行、中堅企業)
- 会食の人数制限廃止により、法人の宴会需要が増えてきており、加えてインバウンドも増加傾向。コロナの5類移行後はさらなる法人の宴会需要の増加に伴い、コロナ前の売上および客足が戻ると期待している。(飲食サービス、大企業)

■ 生産活動 「緩やかに回復しつつある」

自動車関連は、供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかな回復の動きがみられる。航空機体部品は、緩やかに持ち直している。金属工作機械は、高水準で推移している。半導体集積回路は、弱い動きとなっている。液晶は、横ばいとなっている。開閉機器は、緩やかに持ち直している。プラグは、持ち直しの動きがみられる。電動機は、緩やかに回復しつつある。普通鋼は、おおむね横ばいとなっている。特殊鋼は、引き続き、弱い動きとなっている。

- 半導体等の部品不足による影響は徐々に薄れてきており、足下では稼働率が上昇している。今後も部品供給が不安定な状況が続くが、受注残解消に向けた生産を計画している。(輸送機械、大企業)
- 受注残が高い水準が続いている。受注残対応のため生産水準が高い状況が続いており、今後も同様の状況が続く見込み。(生産用機械、大企業)
- 情報通信機器向けの需要低迷が続いているため、需要動向に合わせて生産稼働率を調整している。稼働調整により製品在庫が過剰気味の状況は徐々に解消しているが、今後も不透明な状況が続くとみている。(電子部品・デバイス、大企業)
- 半導体不足等の影響が残っているため計画は下回っているものの、完成車メーカーからの受注は回復しており、稼働率は徐々に上昇している。今後も不透明感はあるものの、この状況が続くと見込んでいる。(電気機械、大企業)
- 完成車メーカーからの受注は回復傾向だが、完成車メーカーの減産時に生じた在庫の調整に時間を要しており、生産稼働率を落としての操業が続いている。(鉄鋼、大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率はおおむね横ばいで推移している。完全失業率は低水準である。求人の状況については、業種間等でばらつきがみられる。

- メーカー側の生産計画に合わせて従業員を採用したものの、たび重なる計画変更や生産停止により、過剰気味な状態が続いていた。最近では生産回復に伴い、適正に落ち着いてきているが、募集再開については、もうしばらく様子を見る。(輸送用機械、大企業)
- スーパーでの人手確保は、宿泊・飲食業との競争が生じていることから困難を極めている。加えて電気代の高騰により利益を圧迫されているため省人化を進めていきたい。(小売、中小企業)
- 客足が増加していることから、人手不足感がさらに増している。新規採用も中途採用も行っているが、コロナ前と比較し、応募者が少なくひっ迫している。派遣会社に依頼しても、派遣を断られることもある。(サービス、中堅企業)
- より好条件を求めたり、非正規から正規への転換を目指したりといった積極的な理由の転職を考える人も多くみられた。(労働局)

- **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
 - 製造業では、生産用機械などが減少となるものの、情報通信機器や輸送用機械などが増加となることから、増加見込みとなっている。
 - 非製造業では、建設などが減少となるものの、運輸などが増加となることから、増加見込みとなっている。
- 工場新設に合わせて、LNG ガスによる発電設備とコージェネレーションシステムの導入や太陽光パネルの設置により、エネルギー使用率とCO2 排出量の削減を図っていく。(はん用機械、大企業)
- **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
 - 製造業では、生産用機械や窯業・土石などが減益となるものの、情報通信機器や輸送用機械などが増益となることから、増益見込みとなっている。
 - 非製造業では、建設や情報通信などが減益となるものの、サービスなどが増益となることや運輸が黒字となることから、増益見込みとなっている。
 - **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
 - 景況判断BSIでみると、全産業の現状判断は、「下降」超となっている。また、先行き(5年4-6月期)は「上昇」超に転じる見通しとなっている。
 - **住宅建設** 「弱い動きとなっている」
 - 住宅建設は、持家の減少傾向が続いており、分譲住宅、貸家も前年を下回っていることなどから、弱い動きとなっている。
 - **公共事業** 「前年を下回っている」
 - 前払金保証請負金額でみると、市町村、独立行政法人等は増加しているものの、地方公社等、県などが減少していることから、前年を下回っている。
 - **輸出** 「緩やかに増加している」
 - 輸出(円ベース)は、緩やかに増加している。なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。
 - **企業倒産** 「件数は前年を上回っている」

3. 各県の総括判断

	前回(5年1月判断)	今回(5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
愛知県	緩やかに回復している	緩やかに回復している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
岐阜県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
静岡県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
三重県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部で調整する動きが続いているものの、全体ではおおむね横ばいとなっている。雇用情勢は、改善に向けた動きが続いている。

近畿財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、人流の回復やインバウンドの増加により、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	持ち直している	一進一退の状況にある	↔
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	4年度は増益見込みとなっている	4年度は増益見込みとなっている	→
住宅建設	前年並みとなっている	前年を上回っている	↗
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外経済の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店販売は、国内客の回復に加え、インバウンドの増加により免税売上が増加するなど、回復の動きがみられる。スーパー販売は、物価高による買い控え等がみられるものの、値上げの影響もあり売上は前年を上回っている。コンビニエンスストア販売及びドラッグストア販売は、都市部や観光地の店舗を中心に、国内観光客やビジネス客のほか、インバウンドの増加もあり、売上が増加している。ホームセンター販売は、物価高による客足の減少がみられ、弱い動きとなっている。家電販売は、新生活需要はみられるものの、横ばいの状況にある。乗用車の新車登録届出台数は、供給面での制約の影響が和らぎ、前年を上回っている。旅行取扱の状況は、海外旅行は引き続き厳しい状況にあるものの、各種支援策の後押しもあり国内旅行は持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加を背景に、婦人服やオケージョン衣料が好調であったほか、インバウンドによる免税売上も増加しており売上は好調となっている。(百貨店・大企業)
- 冷凍食品などは引き続き好調であるものの、卒入学など出費が多い時期でもあり、節約志向が高まっている印象がある。(スーパー・大企業)
- 繁華街や観光地を中心に人出の増加が顕著であり、それに伴い客数も大きく増加しており売上は好調となっている。(コンビニエンスストア・大企業)
- 人出が回復し、インバウンドも増加傾向にあるため売上は改善している。またマスク着用が個人の判断になった影響から化粧品売れ行きも好調となっている。(ドラッグストア・中小企業)
- 新生活需要から一人暮らし向けの家電がよく売れた。そのほか、物価上昇により消費マインドが低下しているのか、比較的安価な商品を求める客が多かった。(家電量販店・大企業)
- 半導体不足等の影響が緩和傾向にあることに加え、今期は国内出荷分の割合が高かったこともあり、売上台数は例年並みの水準に戻っている。(自動車販売店・中小企業)
- 国内旅行は、旅行需要が高く回復傾向が継続しているが、海外旅行は、航空券の価格が高騰していることもあり需要が戻っていない。(旅行代理店・中堅企業)
- マスク着用の緩和などから外食への気運が高まっており、今期は売上がコロナ前の水準に最も近づいた。宴会需要も徐々にではあるが戻ってきている。(飲食サービス・中堅企業)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

鉱工業指数(生産)で見ると、車載用電池等が好調に推移していることから、電気・情報通信機械などが上昇しているものの、スマートフォンやパソコンの需要が低迷していることなどから、電子部品・デバイスなどが低下しており、生産活動は一進一退の状況にある。

- 車載向けリチウムイオン電池については、旺盛な需要が継続している。(電気機械・大企業)
- スマートフォンについては、海外等の景気低迷を受けた需要減速により販売台数が大きく減少しており、関連する電子部品についても受注が想定以上に減少している。(電子部品・デバイス・大企業)
- 中国の景気後退や円安の緩和の影響から、5G基地局向けの光硬化樹脂などの受注・販売が落ち込んだ。(化学・大企業)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は横ばいで推移しているものの、新規求人数は増加傾向にあり、完全失業率もおおむね前年を下回って推移していることから、雇用情勢は持ち直しつつある。

- コンビニ業界は時給が低いことから、他の業態に人が流れやすく人材の確保が難しい。当社も人員は不足しており、人材確保のために時給を上げている。(コンビニエンスストア・大企業)
- 正規職員、非正規職員ともに人手不足。離職も相次いでいる。特にレストランの給仕やハウスキーパーが足りておらず、募集しても集まらない状況。(宿泊・大企業)
- ドライバー不足が続いている。令和5年4月の大卒採用については、予定した人数を確保することが出来なかった。内定しても4割程度が辞退してしまう。(運輸・大企業)
- 新卒採用者については、特にデジタル人材など技術系人材の争奪戦が激しくなっている印象がある。人材を確保するべく、初任給を引き上げた。(生産用機械・大企業)

- **設備投資「4年度は前年度を上回る見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和5年1～3月期
 - 製造業では、業務用機械などが前年度を下回っているものの、生産用機械、はん用機械などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、不動産などが前年度を下回っているものの、建設、卸売などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 研究開発拠点の拡充、台風対策及び耐震補強などのBCP対策を計画。（生産用機械・大企業）
- 物流施設への投資額が増加。（建設・大企業）

- **企業収益「4年度は増益見込みとなっている」**（全産業）「法人企業景気予測調査」令和5年1～3月期
 - 製造業では、情報通信機械などが減益となるものの、化学、電気機械などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
 - 非製造業では、建設などが減益となるものの、運輸・郵便、卸売などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

- **住宅建設「前年を上回っている」**
 - 新設住宅着工戸数でみると、貸家などが増加していることから、前年を上回っている。

- **輸出「前年を上回っている」**
 - 管内通関実績（円ベース）でみると、輸出は、アメリカ向けの医薬品や鉄鋼などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入は、前年を上回っている。

【その他の項目】

- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和5年1～3月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業では「下降」超となっている。先行きについて、5年4～6月期は、全産業では「下降」超の見通しとなっている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等や市町村などで増加していることから、前年を上回っている。
- **金融** 貸出金残高は、前年を上回っている。
- **消費者物価** 大阪市の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）でみると、食料などが上昇していることから、前年を上回っている。
- **企業倒産** 倒産件数は、前年を上回っている。

3. 各府県の総括判断

	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較	総括判断の要点
大阪府	持ち直している	持ち直している		個人消費は持ち直している。生産活動は足踏みの状況にある。雇用情勢は持ち直しつつある。
滋賀県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は回復しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
京都府	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
兵庫県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は緩やかに持ち直している。雇用情勢はテンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。
奈良県	持ち直している	持ち直している		個人消費は緩やかに回復しつつある。生産活動は原材料価格高騰の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は持ち直しつつある。
和歌山県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は持ち直している。雇用情勢は持ち直しつつある。

中国財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、外出機運の高まりやインバウンドの回復により持ち直している。生産活動は、半導体需要の鈍化や、自動車向けの需要回復の遅れなどから足踏みの状況にある。雇用情勢は、新規求人数が増加しているなど持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	供給面での制約もあって、持ち直しのテンポが緩やかになっている	足踏みの状況にある	↘
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	→
設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	→
企業の景況感	「上昇」超に転じる	「下降」超に転じる	↘
住宅建設	前年を下回る	前年を下回る	→
輸出	前年を上回る	前年を上回る	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

業態別にみると、ホームセンター販売は、インテリア用品などが低調であり、前年を下回っている。スーパー販売、百貨店販売は、外出用品などが好調となっており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、花粉症の鼻炎薬や目薬などが好調となっており、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、飲食料品が好調となっており、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、完成車メーカーが国内向けの供給を増やしたことなどから、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車いずれも前年を上回っている。このように、個人消費は、全体では、持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- 巣ごもり需要の減退により来店客数が減少し、インテリア用品やDIY関連用品などが低調となっている。（ホームセンター）
- 飲食料品は、物価高により買上点数が減少しているなど、消費者の節約志向が高まっているものの、外出機運の高まりに加え、卒業式、入学式のセレモニー需要により衣料品などの売上が回復している。（スーパー）
- 旅行や外出用の衣料などが好調となっている。インバウンドの増加に伴い、コロナ禍前の水準には至らないものの、免税売上も大幅に増加した。（百貨店）
- 花粉症の鼻炎薬や目薬などが好調であったほか、マスクオフ生活に向けて化粧品関連に回復の兆しがみられる。（ドラッグストア）
- 外出機会が増加していることなどから、おにぎりやドリンクなどが好調となっている。（コンビニエンスストア）
- 半導体不足による納車待ちの状態が続いているが、完成車メーカーが国内向けの供給を増やしたことなどから、登録台数が前年を上回っている。（自動車販売）
- マスク着用ルールの緩和等による旅行機運の高まり、全国旅行支援の継続などもあり旅行需要が回復してきている。（旅行代理店）
- 旅行需要が回復してきており、外国人観光客も増加しているため、客室稼働率は高い水準で推移している。飲食店についても行列ができるほどの賑わいとなっている。（宿泊業・飲食サービス業）

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

輸送機械は、半導体不足の緩和で、化学は、医療分野などの堅調な需要により、小幅な増加となっているものの、汎用・生産用・業務用機械、電気機械は、半導体関連産業の需要の鈍化などから大きく減少している。また、鉄鋼は、自動車向けの需要が回復していないことなどから、減少している。このように、生産活動は、全体では、足踏みの状況にある。

- 半導体不足の影響が幾分緩和されたことから、生産が増加している。（輸送機械）
- 海外のインフラ向けなどの需要に弱い動きがみられるものの、医療分野などの機能性製品の需要が堅調となっている。（化学）
- 通信機器向けの半導体需要が鈍化しており、半導体製造装置関連の受注が減少している。（生産用機械）
- 中国の半導体国産化の影響などから、電子機器向けの受注が減少している。（電気機械）
- 完成車メーカーの生産の回復が遅れていることから、部品メーカーの在庫がたぶついており、生産が減少している。（鉄鋼）

■ 雇用情勢 「持ち直している」

雇用情勢は、有効求人倍率が引き続き高水準で推移していることや、新規求人数も増加していることから、持ち直している。

- IT人材が不足しているものの、売上が伸びず資金がないため人員を増やせていない。（繊維工業）
- 観光需要の回復により来客者数は増加しているものの、人手不足のため客室の稼働率を抑えている。（宿泊）
- マスク着用の基準が見直されるなど、新型コロナウイルス感染症の影響が緩和してきていることから、求職活動を新たに開始する動きがみられている。（公的機関）

- **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
- 製造業では、「自動車」などで減少するものの、「生産用機械」、「化学」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、「運輸、郵便」などで減少するものの、「小売」、「その他のサービス」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 老朽化した設備の更新や生産能力向上のための設備投資を実施。(生産用機械)
- 効率化を図るために各店舗の食品加工作業を集中して行う工場を新設。(小売)

- **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
- 製造業では、「生産用機械」、「その他輸送用機械」などで増益となるものの、「化学」、「木材・木製品」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)では、「医療・教育」、「学術研究、専門・技術サービス」などで増益となるものの、「建設」、「小売」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

- **企業の景況感** 「『下降』超に転じる」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期
- 企業の景況判断BSIは、「下降」超に転じている。なお、先行きは「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

- **住宅建設** 「前年を下回る」
- 新設住宅着工戸数で見ると、分譲住宅が増加しているものの、持家、貸家などが減少していることから、前年を下回っている。

- **輸出** 「前年を上回る」
- 輸出(円ベース)は、化学製品、鉄鋼などが減少しているものの、石油製品、一般機械などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、北米で減少しているものの、西欧、アジアなどで増加している。
 - なお、輸入(円ベース)は、石炭、原油及び粗油などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、アジア、大洋州などで増加している。

3. 各県の総括判断

	前回(5年1月判断)	今回(5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
広島県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、外出機運の高まりやインバウンドの回復により持ち直している。生産活動は、半導体需要の鈍化や、自動車向けの需要回復の遅れなどから足踏みの状況にある。雇用情勢は、新規求人数が増加しているなど持ち直している。
鳥取県	持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある	➡	生産活動は足踏みの状況にあるものの、個人消費は持ち直しつつあり、雇用情勢は持ち直している。
島根県	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は緩やかに持ち直している。生産活動は弱含んでいる。雇用情勢は持ち直している。
岡山県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
山口県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、物価上昇の影響はみられるものの、持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。

四国財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、スーパーが底堅い状況のなか、百貨店が緩やかに持ち直しつつあるほか、観光も緩やかに回復しつつあることなどから、全体としては緩やかに持ち直している。生産活動は、化学が足踏みの状況にあるほか、電気機械、パルプ・紙が弱含んでいることなどから、全体としては弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	横ばいの状況にある	弱含んでいる	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパーは、衣料品等に持ち直しの動きがみられるほか、飲食料品が底堅いことから、全体としては底堅いものとなっている。コンビニエンスストアは、酒類を含む飲料品や米飯類等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。ドラッグストアは、飲食料品や医薬品が順調であるほか、化粧品に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、省エネ性能の高い冷蔵庫や洗濯機等に動きがみられるものの、テレビやレコーダー等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。ホームセンターは、園芸用品やペット用品等に動きがみられるものの、日用品等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。百貨店は、来店客数が回復傾向にあるなかで、衣料品等に持ち直しの動きがみられるなど、全体としては緩やかに持ち直しつつある。乗用車の新車登録・届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれにおいても前年を上回っている。観光は、団体客や外国人旅行客の増加がみられ、緩やかに回復しつつある。国内旅行は、全国旅行支援の効果などにより持ち直しており、海外旅行は、水際対策の緩和により持ち直しの兆しがみられる。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加によって衣料品や化粧品等の売れ行きがよい。特に、入学式や卒業式を通常どおり開催する教育機関が増えたためセレモニースーツの売上が伸びた。(スーパー)
- 節約志向の高まりを背景に、牛肉よりも、比較的割安感のある鶏肉を選ぶ消費者が増えている。(スーパー)
- 冷凍食品の売上が伸びている。特に、昼食代を節約するため自宅で弁当を作る方が増えていることから、弁当に使いやすい商品が人気となっている。(スーパー)
- 行楽需要や観光客の増加などを背景に来店客数が増え、おにぎりやパン類、ペットボトル飲料などの売上が伸びている。(コンビニエンスストア)
- 県内で宿泊する観光客が増えており、宿泊施設周辺の店舗を中心にアルコール飲料の売上が伸びた。(コンビニエンスストア)
- 花粉症対策商品が伸びているほか、取扱いを強化している冷凍食品の売れ行きがよい。(ドラッグストア)
- マスクを外す機会が徐々に増加しており、メイク関連商品に売上回復の兆しがみられる。(ドラッグストア)
- 省エネ性能が高く家事の省力化にも資する高付加価値商品の需要が高まっている一方、生活様式の変化によってテレビやレコーダーの動きが鈍い。(家電大型専門店)
- コロナ禍で外出できなかった時期に、ガーデニングを始めた方やペットを飼い始めた方が多く、園芸用品やペット用品の需要が定着しているほか、全国的な強盗事件を受けて防犯グッズが伸びた。(ホームセンター)
- ドラッグストアやスーパーなど他業態との競合が激しく、洗剤やトイレトペーパーの売上が減少しているほか、除菌ティッシュについても、感染症への警戒感が薄まったことで売上が落ちている。(ホームセンター)
- 感染拡大の落ち着いた背景にシニア層の来店客数が戻ってきているほか、催事が好調で来店客数全体が増加。外出機運の高まりなどから衣料品やハンドバッグ等に動きがみられる。(百貨店)
- 受注は新型車発売の効果により比較的好調に推移しており、消費者物価の上昇による買い控えはみられていない。(乗用車)
- 半導体不足などによる生産制約の改善により、登録台数が回復しつつある。(乗用車)
- 大都市圏からの団体客が多くなっているほか、国際線の再開により外国人観光客も増加している。(観光)
- 宿泊者数は、全国旅行支援の効果もあってコロナ前の水準に近づいている。(観光)
- 割引率の低下後も全国旅行支援が旅行需要喚起の要因となっているほか、ウィズコロナの浸透もあって旅行者数は順調に回復している。(旅行)

■ 生産活動 「弱含んでいる」

化学は、一部に受注の減少がみられることから、足踏みの状況にある。電気機械は、電子部品に弱さがみられることから、弱含んでいる。パルプ・紙は、印刷用紙等に弱さがみられることから、弱含んでいる。こうしたことから、全体としては弱含んでいる。

- 医薬品は、国内需要、海外需要ともに順調であり、生産量は増加している。(化学)
- 自動車の生産調整を行っていた影響がみられており、生産量は減少している。(化学)
- 中国向けのスマートフォン電子部品について、引き続き在庫調整が行われていることから、生産量が減少している。(電気機械)
- チラシやカタログのペーパーレス化が進んでいるなか、価格転嫁の影響もあり、印刷用紙の需要が減少している。(パルプ・紙)

■ **雇用情勢** 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率はこのところ低下しているものの、新規求人数は前年を上回っており、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 有効求人倍率の低下は、求人提出時期のずれや、前年の大型求人の反動などによるものであり、人手不足の傾向は続いている。(労働局)
- 感染症の影響緩和や物価高などから、高齢者等の求職活動が活発になっている。(労働局)
- 旅行者の増加から、人手不足感が高まっている宿泊業で求人数が増加している。(労働局)
- 原材料価格の高騰により厳しい状況が続いているものの、人員を確保するために今年度はベースアップを実施する予定である。(食料品製造業)

■ **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業で前年を下回る見込みとなっているものの、非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業及び非製造業で増益見込みとなっており、全体としても増益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲のいずれにおいても前年を上回っている。

- 住宅価格の上昇などによって購入を控える動きは続いているものの、貸家については、相続税対策や古い物件の建て替え需要がみられる。(専門サービス業)

■ **公共事業** 「前年度を下回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、市町村は前年度を上回っているものの、国は前年度並みとなっており、独立行政法人等及び県は前年度を下回っていることから、全体としても前年度を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (5年1月判断)	今回 (5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
徳島県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
愛媛県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、弱含んでいる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
高知県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

九州財務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、宿泊などサービス消費を中心に持ち直している。生産活動は、半導体関連の需要に落ち着きが見られるなど、回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	緩やかに回復しつつある	回復に向けた動きに一服感がみられる	↘
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	→
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は減益見込み	→
住宅建設	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、物価上昇の影響もみられるものの、外出機会の増加により衣料品が堅調なことから、持ち直している。コンビニエンスストア販売は、観光地周辺や繁華街の店舗を中心に好調である。ドラッグストア販売は、化粧品需要の戻りもあり堅調である。ホームセンター販売は、日用品などの動きが鈍いことから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、節電効果の高い製品への買い替え需要が続いているものの、横ばいとなっている。乗用車の新車販売は、納期の改善がみられ、持ち直している。宿泊は、観光需要喚起策の効果もあり、回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 衣料品は卒業式や入学式などの人数制限緩和により、フォーマルウェアを新調する動きがみられた。食品催事は値上げが続くなかでも好調である。(百貨店・スーパー)
- 節約志向から、低価格帯の生鮮食品を購入する動きが強まっている。(百貨店・スーパー)
- インバウンド需要については、観光地を中心に好調であり、みたらし団子などの和菓子がSNSで拡散されている影響もあってよく売れている。(コンビニエンスストア)
- マスク着用ルールの緩和により、口紅などのメイク用品を中心にカウンセリング化粧品の売上が戻っている。(ドラッグストア)
- 節電効果の高い高機能モデルのエアコンや冷蔵庫が好調な一方、旅行などへの消費シフトにより来店者数は減少している。(家電大型専門店)
- 部品供給が安定してきたことで自動車の生産は回復しており、1月以降の新車登録台数は、コロナ禍前の水準に近づいている。(自動車業界団体)
- 2月の宿泊稼働率は、スポーツキャンプの開催効果により非常に好調だった。3月以降も全国旅行支援などの政策効果により、県外個人客を中心に好調を維持している。マスク着用が個人判断になったことや新型コロナウイルス感染症の5類移行という制約緩和の動きもあり、外出意欲の高まりを感じている。(宿泊業界団体)
- 平日のランチや土日を中心に来店客数が増えており、売上もコロナ禍前とほぼ同水準まで戻っている。(ファミリーレストラン)

■ 生産活動 「回復に向けた動きに一服感がみられる」

食料品等は、足踏みの状況にある。電子部品・デバイスは、高水準を維持している。化学・石油製品は、弱含んでいる。汎用・生産用・業務用機械は、増加傾向に一服感がみられる。輸送機械は、供給制約の影響が緩和されつつあり、持ち直している。

- 商品を値上げしたことで販売数量が減少したため、工場の稼働率を5%ほど落としている。原材料の値上がりに伴い再値上げをするため、更なる需要の減少を懸念している。(食料品等)
- 高付加価値製品が成長をけん引しており、生産は高水準を維持しているが、海外経済の減速の影響が一部にみられる。(電子部品・デバイス)
- 海外での需要の低迷を受け、車載向け製品、パソコンやスマートフォンなどの民生向け製品の稼働率を下げている。(化学・石油製品)
- 世界的なインフレや海外景気の減速、パソコンやスマートフォン市場の低迷により、半導体製造装置市場が減速しており、このところ落ち着いた生産状況となっている。(汎用・生産用・業務用機械)
- 部材不足の完全な解消には至っていないが、新型車を中心に引き続き高い需要が続くなか、生産車種の振り替えを進めることで受注残の解消を進めている。(輸送機械)

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率は、このところ横ばいとなっている。新規求人数は、宿泊業・飲食サービス業を中心に前年を上回って推移している。

- 感染症の落ち着きや全国旅行支援の効果により旅行需要が回復しつつあるため、宿泊業の求人が増加している。(公的機関)
- 大手製造業の協力会社は、生産調整の影響を受けるため、雇用に慎重になっている模様。(公的機関)
- インバウンドの増加などもあり宿泊の申込みは増えているが、人手不足感が更に強まっていることから、客室稼働率を落とさざるを得ない宿泊施設もみられる。(宿泊業界団体)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期

- 製造業では「はん用機械器具製造業」などで減少見込み、「情報通信機械器具製造業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では「情報通信業」などで減少見込み、「運輸業、郵便業」などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。

- 生産能力増強のための新規設備投資。(情報通信機械器具製造業)
- 新型船の建造。(運輸業、郵便業)

■ **企業収益** 「4年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期

- 製造業では「パルプ・紙・紙加工品製造業」などで減益見込み、「情報通信機械器具製造業」などで増益見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では「宿泊業、飲食サービス業」などで増益見込み、「農林水産業」などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「持ち直しつつある」

- 新設住宅着工戸数(4年12月～5年2月)をみると、持家は前年を下回っているものの、貸家及び分譲は前年を上回っている。

【その他の項目】

■ **企業の景況感** 「現状判断は『下降』超」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1～3月期

- 5年1～3月期の景況判断BSIをみると、全産業では「下降」超となっている。先行き(全産業)をみると、5年4～6月期は「上昇」超の見通しとなっている。

■ **公共事業**

- 公共工事請負金額(4年度末累計)をみると、前年度を上回っている。

■ **倒産**

- 企業倒産(5年1～3月期)は、件数は前年を上回り、負債金額は前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(5年1月判断)	今回(5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
熊本県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、物価上昇の影響もみられるものの、宿泊などサービス消費を中心に持ち直している。生産活動は、半導体関連の需要に落ち着きがみられるなど、拡大の動きに一服感がみられる。雇用情勢は、持ち直している。
大分県	持ち直している	持ち直している	→	個人消費は、物価高の影響もみられるなか、百貨店・スーパーや宿泊・観光関連などで客数が増加していることから、持ち直している。生産活動は、非鉄金属・金属製品において海外向けの需要により堅調となっているなど、持ち直している。雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業などにおいて新規求人数の増加が続くなど、持ち直している。
宮崎県	緩やかに持ち直している	持ち直している	↗	個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、百貨店・スーパーやレジャー・観光施設などで客足に戻りがみられることから持ち直している。生産活動は、供給面での制約などの影響がみられるなか、食料品工業などに弱さがみられ、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、宿泊業・飲食サービス業などを中心に緩やかに持ち直している。
鹿児島県	持ち直している	持ち直している	→	個人消費は、百貨店・スーパー販売や宿泊・観光施設などで客数の増加傾向が続いていることから、持ち直している。生産活動は、在庫調整の動きが拡大するなど、弱含んでいる。雇用情勢は、持ち直している。

福岡財務支局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	一進一退の状況にある	緩やかに持ち直しつつある	↗
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店販売は、インバウンド需要や衣料品を中心としたセレモニー需要の増加などにより、前年を上回っている。スーパー販売は、商品単価の上昇により、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、引き続き行楽需要が好調であり、前年を上回っている。乗用車販売は、国内向けの生産増加により納期が改善しており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、新規出店効果のほか、食料品や衣料品などが好調であり、前年を上回っている。家電大型専門店販売、ホームセンター販売は、前年並みで推移している。旅行取扱高は、全国旅行支援及び水際対策の緩和により、引き続き国内外への旅行が増加している。

(主なヒアリング結果)

- 外国人旅行客の増加により、免税品やお土産（お菓子）の売上が増加。2月以降では、冠婚葬祭用の衣料品の売上が増加したほか、バレンタイン商戦は過去一番の売上となり好調であった。また、3月以降は送別会等の機会の増加に伴い、ギフト商品の売上も増加した。（百貨店、大企業）
- 1月は値上げに伴い売上が増加していたが、2～3月にかけては、買い上げ点数、来店客数が減少しているため、前年と同水準の売上高となっている。（スーパー、中小企業）
- 引き続き行楽需要は好調。新たに低価格商品の取扱いを始めたほか、高付加価値商品の販売も好調であり、売上は増加している。（コンビニ、大企業）
- メーカーも挽回生産しているが、受注数が納車数を上回っており、受注残が増加している状況。車種によっては納車見込みがたらず商談不可とする車種もある。（自動車、中小企業）
- 全国旅行支援の期限を前に年明けから駆け込み需要があり、国内パッケージ旅行が好調に推移した。割引率は縮小したが、コロナウイルスの感染が落ち着いたことで、需要は増加している。（旅行代理店、中堅企業）
- 稼働率はコロナ前を超える水準で推移している。3月は全国旅行支援終了前の駆け込み需要により、稼働率が伸びている。（宿泊、中堅企業）
- 全国旅行支援の効果などもあり、入場者数、宿泊者数ともに前年を上回っている。また、外国人の利用者はコロナ禍前の5割ほどの水準まで回復している。（娯楽、大企業）
- 都市部の店舗で、インバウンド客の増加や、コロナの影響緩和により人流がさらに増加していることから売上が増加している。（飲食、中小企業）

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

輸送機械の自動車は、供給制約の影響が緩和されたことにより、生産台数が増加している。鉄鋼は、海外需要などが伸び悩んでいることから横ばい圏内で推移している。電子部品・デバイスは、海外向けなど一部に弱含みの動きがみられるものの、高水準で推移している。造船は、受注残高は増加傾向にあり、一定の操業を維持している。このように、生産活動は緩やかに持ち直しつつある。

- 足下では部品不足が和らいでおり、3月以降は例年並みの生産台数となる見込み。受注も引き続き好調。今後についても楽観視はしていないが、昨年後半に見られたような生産台数の急激な落ち込みは当面ないのではないかと見ている。（輸送機械、大企業）
- 受注、生産とも前四半期比でほぼ横ばい。自動車向けが伸び悩んでいるほか、中国の鋼材需要もあまり良くない。先行きもどうなるか読めない状況が続いている。（鉄鋼、大企業）
- 引き続き自動車メーカー減産の影響や中国市場の落ち込みが見られるものの、受注残解消のためフル稼働に近い水準での生産が続いている。（情報通信機械器具、大企業）

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は改善の動きが継続しているほか、新規求人数も前年を上回って推移するなど、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- より好条件の企業へ人が流れており、経験を有する技術職など求める人材を確保できていない。派遣や非正規雇用の従業員も賃金を上げないと集まらない。（電気機械、大企業）
- コロナ禍で離職した従業員が戻っておらず、人手不足から営業時間を短縮している店舗もある。同地域の同業他社よりわずかに時給をあげるなどの対応をしているが、状況は厳しい。（飲食、中小企業）
- 有効求人倍率は上昇しているほか、宿泊業・飲食サービス業等からの新規求人数も増加するなど、雇用情勢は改善している。また、賃金動向としては、求人票を出す企業の多くが同業他社の賃金水準を気にしている様子が伺える。（公的機関）

■ **設備投資 「4年度は増加見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減少見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「生産用機械器具」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「不動産」等で減少見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「金融、保険」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

➢ 通信関連や自動車向けなど広範囲で需要拡大が継続しており、シリコンウエハー関連の高精度化・生産能力増強の大型投資を実施するため、増加見込みとなっている。(非鉄金属、中堅企業)

➢ 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、投資の抑制を行い、維持更新が中心であったが、今年度は維持更新に加え、ビル建設などを予定しており、増加見込みとなっている。(運輸、郵便、大企業)

■ **企業収益 「4年度は増益見込み」** (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減益見込みとなっているものの、「電気機械器具」、「非鉄金属」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「建設」等で減益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「生活関連サービス」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **住宅建設 「前年を上回っている」**

- 新設住宅着工戸数でみると、貸家、給与住宅が減少しているものの、持家、分譲住宅が増加していることから前年を上回っている。

■ **輸出 「前年を上回っている」**

- 輸出 (円ベース) は、前年を上回っている。なお、輸入 (円ベース) は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査 (5年1-3月期) の景況判断BSIでみると、5年1-3月期は、「下降」超に転じている。先行きについては、5年4-6月期は、「上昇」超に転じる見通しとなっている。


3. 各県の総括判断

	前回 (5年1月判断)	今回 (5年4月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
佐賀県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、物価上昇等の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
長崎県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

沖縄総合事務局

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	




（注）5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。







（判断の要点）

個人消費は、持ち直している。観光は、旅行需要喚起策の効果などから、持ち直している。雇用情勢は、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
観光	持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	

設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は、「上昇」超幅が縮小している	現状判断は、「上昇」超幅が縮小している	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
公共事業	前年を下回っている	前年を上回っている	
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直しつつある	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売額は、食料品が堅調に推移していることや、各種行事の再開により衣料品に動きがみられることなどから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売額は、観光地周辺の店舗などで好調なことから、前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、前年を上回っている。新車販売台数は、前年を上回っている。中古車販売台数は、前年並みとなっている。家電販売額は、前年を下回っている。このように個人消費は、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 国内観光客も戻ってきており、特に外国観光客が戻りつつあることで、免税売上が回復してきたことは明るい材料。3月は卒入学のオシャレ着や贈答品、お祝い返しなども好調に推移している。(百貨店・スーパー)
- 食料品は引き続き堅調な売れ行きをキープ。総菜は引き続き好調。時短・簡便にというニーズがあるのではないかと。素材の値上がりがあるため、値ごろ感を感じるのかもしれない。衣料については、昨年の反動増もあるが、好調に売り上げを伸ばしており、卒業式・入学式が実施されていることが大きいのではないかと。(百貨店・スーパー)
- キャンプ効果により球場近隣は好調で、観光地周辺店舗では売上が対前年比2倍近い店舗もあるほか、住宅地周辺店舗では土日の売上の伸びが高いことから、地元客の動きも活発化している。(コンビニエンスストア)
- コロナはだいぶ落ち着いてきたが、引き続き、総合感冒薬、解熱鎮痛剤などが好調に推移。3月に入ってからメイク化粧品などに動きが出ており、直近では、来店客数(既存店)でも対前年比を上回っている。(ドラッグストア)
- 生産回復により受注分の納車ができきたおかげで、登録ベースでは数字はよくなっている。(自動車販売店)
- 2月頃から客足は戻っている印象。1-3月期は新生活準備のため、1年で一番売れる時期だが、昨年7月頃をピークとして仕入れ価格は落ち着いてきており、販売台数としても前年並みを確保した。(中古自動車販売店)
- 物価高に加え、人流回復で、レジャーなどのサービスに消費マインドが向いており、家電などの耐久消費財には消費が向いていない。TVやPCは買い替えサイクルも一巡し厳しいが、省エネ製品への買い替え需要がみられる。(家電量販店)

■ 観光 「持ち直している」

入域観光客数は、国内客は、旅行需要喚起策の効果などから増加している。外国客は、再開された国際線の拡大などから増加している。ホテルの客室稼働率、客室単価は、ともに前年を上回っている。このように観光は、持ち直している。

- 全国旅行支援延長の公表が遅く、リードタイム(予約から旅行日までの期間)が短かった。延長の公表待ちの人も多く、1月は同支援策の効果をあまり感じられなかった。2月、3月から効果が出始め、好調となった。春休みのファミリー客の予約が好調。(旅行)
- 2月はプロ野球キャンプの応援や去年延期となった修学旅行があり、好調。3月の宿泊人数比(2019年同月比)は、70~75%の見込み。春休みの卒業旅行等の団体需要を取り込むことが出来ており、好調を維持している。(宿泊)
- 今期の国内客については、コロナ禍前の同時期よりも多くなっている。(旅行)
- 修学旅行はコロナ第8波の影響も懸念されたが、キャンセルもほとんど無く予定通り行われた。前期(10-12月期)から延期した分もあり、多くの学校が来県したと思う。次年度も現在のところキャンセルの動き無し。(他運輸)
- 企業の報奨旅行等、団体客の利用が増えている。秋口にかけてまで予約は好調である。(宿泊)
- インバウンドは戻ってきてはいるが、まだまだ弱い。2~3月は人数比(2019年同月比)で15%。東京や京都等の定番の観光地から先に戻っている。沖縄はその次ではないか。(旅行)
- バス・レンタカー不足について、前期10-12月は修学旅行の繁忙期であり影響が見られたが、今期1-3月期は予約キャンセルに繋がるようなことは無かった。(娯楽)
- 観光客の需要は旺盛であるが、対応できる人員が不足しており、稼働は意図的に抑えている。忙しい時間帯は、事務員や管理職総出で対応している状況。(レンタカー)
- GWの旅客数は2019年度比で約6割。GWが近づくに連れて上がってきてはいるが、思ったよりも伸びない。コロナ前の水準にはまだ及ばない。(他運輸)

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率（季節調整値）は、上昇している。新規求人数は、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業など、多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数（新規求職申込件数）は、前年を下回っている。このように雇用情勢は、持ち直している。

- 2月の有効求人倍率（季節調整値）は1.12倍であり、昨年8月から7カ月連続の1倍超えとなった。正社員有効求人倍率は0.67倍であり、2月としては過去最高値。処遇改善の求人が増加していることがうかがえる。（公的機関）
- 今期1-3月期の特徴として、正社員の求人数が増加している。コロナ直前の令和2年の同時期と比べても多くなっている。（求人誌出版）
- 観光業が回復しつつあるなかで、店舗のアルバイト従業員などが夏場の観光ハイシーズンの時期に、より時給の高いホテル等へ流れて、採用しにくくなるという懸念がある。（コンビニエンスストア）
- 人手不足により、レストランの営業に支障が出ており、受け入れ人数を制限している。また、ガイドも不足しており、需要機会を逸失している。（娯楽）
- 人手不足は変わらず、時給を上げて募集するも、全く応募が無い。就職する学生アルバイトの補充もできない。派遣社員を採用したいが紹介は無く、派遣会社からは時給を更に上げた方が良いのではとされている。（レンタカー）
- 昨年12月から初任給を3万円アップ。その効果もあり、外国人従業員を3名採用できた。既存の従業員もベアを実施。当社としては借入れがあるなかで経営負担があるが、人材離れを防止するために賃上げを優先した。（宿泊）

■ 設備投資 「4年度は前年度を上回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、前年度を46.8%下回る見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売・小売、不動産・物品賃貸で減少するものの、電気・ガス・水道、金融・保険で増加することなどから、全体では前年度を28.1%上回る見込みとなっている。

- 今年度は工場設備の新設などを予定しているものの、減少見込みである。（食料品）
- 今年度は店舗の建替え工事などを予定しており、増加見込みである。（金融・保険）

■ 企業収益 「4年度は増益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 製造業では、31.4%の減益見込みとなっている。
- 非製造業では、建設などで減益となるものの、不動産・物品賃貸で黒字転化となることなどから、全体では56.7%の増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「現状判断は、「上昇」超幅が縮小している」（全産業）「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

- 企業の景況判断BSIは、全産業では「上昇」超幅が縮小している。先行きは5年4-6月期は「上昇」と「下降」の均衡となり、5年7-9月期は「上昇」超となる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数は、持家で前年を下回っているものの、貸家、分譲で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 公共工事前払金保証請負額（4年度累計）は、前年を上回っている。

■ 生産活動 「緩やかに持ち直しつつある」

- 生産活動は、観光需要の回復により足下で食料品に持ち直しに向けた動きがみられることなどから、緩やかに持ち直しつつある。

財務省大臣官房総合政策課

東京都千代田区霞が関3丁目1番1号

Tel. 03-3581-4111 (内線) 2252, 2225

財務省ホームページアドレス <https://www.mof.go.jp/>